

経営比較分析表（令和4年度決算）

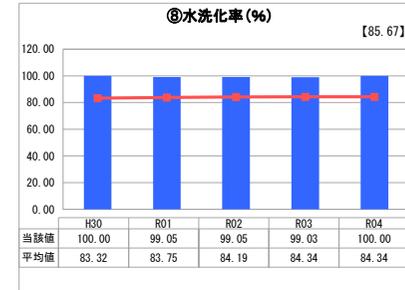
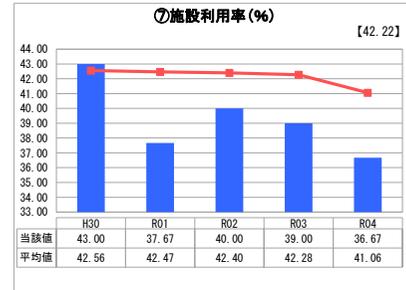
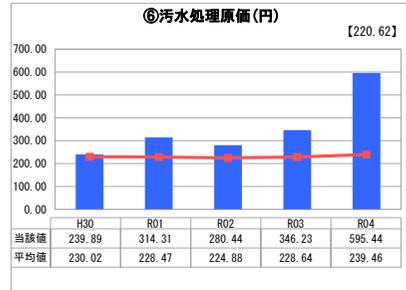
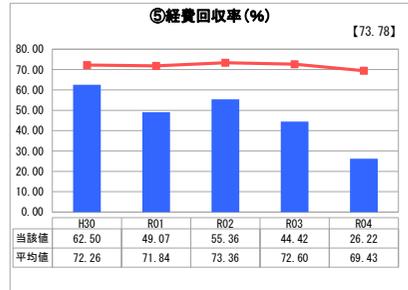
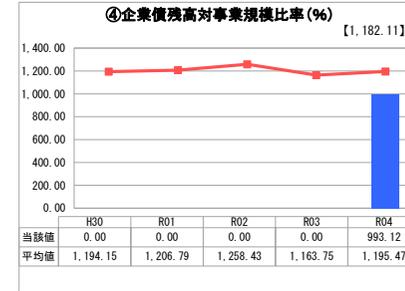
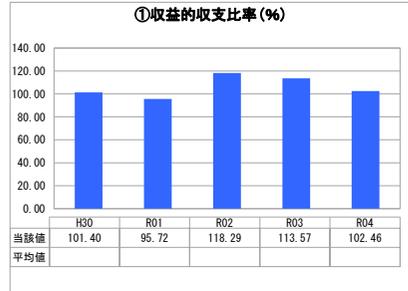
宮城県 西米良村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	38.69	71.27	2,500

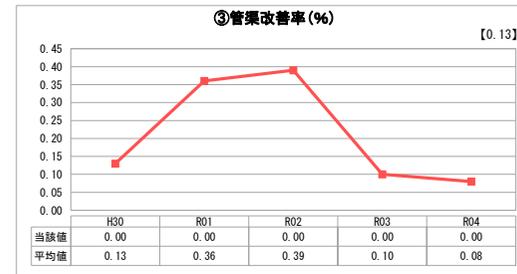
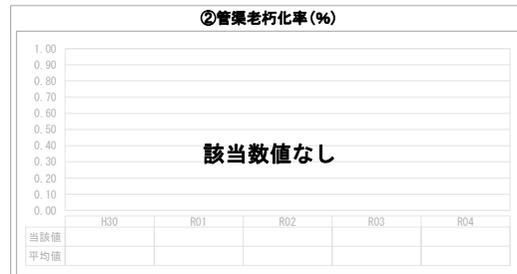
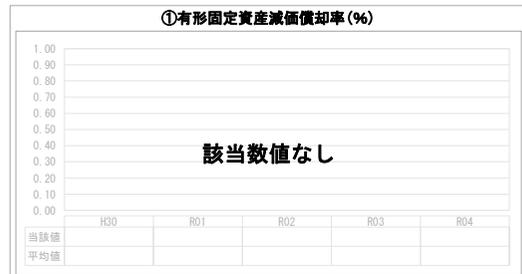
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,073	271.51	3.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
409	0.23	1,778.26

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①収益的収支比率・⑤経費回収率】
収益的収支比率は100%を超える水準で横ばい傾向に推移しているが、経費回収率は令和3年度よりも18%悪化し、類似団体と比較しても低水準となっている。事業の運営費用を使用料及び負担金で賄えずに一般会計繰入金に財源を依存していることが原因であり、令和7年度までに経営戦略の内容を見直し、使用料金の改定等の議論を開始する予定である。

【⑥汚水処理原価】
令和3年度と比較して249円程度上昇した。浄化施設修繕案件の増加、公営企業会計適用準備による営業費用の増加が要因であるが、維持管理費の効率的な縮減を図り改善していく。

【施設利用率】
施設利用率は令和3年度と比較し2.3%程度低下しているものの、し尿前処理施設からの投入を換算すると概ね80%程度の稼働を維持しており施設規模は妥当と判断し今後も維持に努める。

【水洗化率】
水洗化率は100%となっており今後も維持に努める。

2. 老朽化の状況について

本村浄化センターは平成13年度に供用を開始し一定年数を経過していることから今後はストックマネジメント計画に基づき改築更新の実施を検討する。

全体総括

地方債の償還ピークは終了し収益的収支比率も100%を超えており経営状況は改善されているように見えるが排水人口の減少により料金収入は低下を続け財源を一般会計繰入金に依存している。今後処理施設の更新需要も大きく出てくることから料金の改定を含めた経営戦略の見直しを行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。